

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

第一次世界大戦で日本軍に敗れたドイツ軍は俘虜（ふりよ）（戦争で敵にとらえられた者）として徳島県の板東（ばんとう）というところにつくられた施設に収容された。この物語はその施設での話である。後に続く文章は、この施設に郵便物を届けに来ている芳一（よしかず）という少年が「大阪に行くことになった」と打ち明ける場面である。貧しさから学校に行けない芳一は、ドイツ人俘虜たちに勉強を教えてもらっていた。

水晶宮（しやうきゆう）で昼食を終えて、ドイツ語と物理の授業を受けたあと、もう個人教授は必要ない、と芳一が言い出した。

「どういうことだね」^①デイトツはドイツ語を教えているウンガーに訊いた。彼は首を捻（ひね）りながら芳一に通訳した。

「大阪へ行くんです」と少年は照れたような笑みを浮かべて応えた。大阪がどこだか知らないデイトツは、

「何をするにしても学問は必要だ」といった。「まだ君の人生は始まったばかりじゃないか」

芳一は、義母の遠縁（えん）に当たる人物の働く大阪の機械工場に欠員ができたので、就職することになったのだった。

「独りで大丈夫かね」

少年は、はにかんだ表情になった。

「大丈夫です。ここであんなことを教えてもらいましたから」

デイトツは哀（あは）れで仕方がなかった。できるものならそばに置いてやりたいが、いつ本国へ帰還（かへん）するか知れない身の上だった。引越（こ）しの時に犬を捨てるような無責任なことではできない。当惑（たうわく）しているデイトツと違って、芳一は淡々（たんたん）としていた。

「大阪は行ってみたいんです。全然知らないところだけど、工場で働けるのは嬉しいです」

「でも、独りで生活するのは大変だよ。本当に大変だよ」デイトツは同じことを繰り返した。

「自分はろくに学校へ行けなかったけど、ここでみんなにドイツ語や物理や化学を教えてもらって、なんていうか、新しい世界が開けたっていうか、板東の外に大きな世界の広（ひろ）がっていることが分かりました。工場の仕事がそういう世界へ通じてるのなら、大阪へ行くのが楽しみです」

「なかなかしつかりしたことをいうじゃないか」通訳しながらウンガーがいった。

デイトツは領（うなず）きながら、芳一を待っている新しい世界を想像した。小学校もともに卒業していない少年に任されるのは、すぐ人の入れ替（か）えがきく単純な作業に違いない。掃除（そうじ）をしたり、物を運んだり、誰（だれ）がやってもいいような仕事だ。うまくいくと何年かすれば機械に触（ふ）れられる。し

かし専門的な知識も技能も持っていないのだから、指示通りに油（あぶ）を差（さ）したり、スイッチを押（お）したり、やはり単純な作業を与（あた）えられる。こういう工場は働く時間が長く、体を壊（こわ）す者も少なくない。職人として世の中を渡（わた）って、さまざまな人間を見て来たデイトツには、芳一の未来に□的な風景しか広がらなかった。

「ほかの途（みち）はないのかね。もう少しよく考えたほうがいいと思うんだけどね。ここの仕事だつてまだあるわけだし」

申し訳（わけ）なさそうな顔をして、

「それは……すみません。でも、お母さんがもう決めてしまったから……」^④

「そうか……いつ行くんだね？」

一週間後、と彼は応えた。

「そんなに早く！」

「はい」彼はまた申し訳（わけ）なさそうな顔をした。

「母親にしてみれば、子供は一人でも早く自立させたほうが負担は少ないだろうな」ウンガーが辛（つら）そうにいった。

デイトツは梶（かじ）の家で幼い子供にまとわりつかれて、疲（つか）れた表情で坐（すわ）り込んでいた芳一の母親を思い出した。確かにあの若（わか）さで、寝（ね）た切りの夫と年寄りを養（やし）って、子供達を育て上げるのは大変なことだろう。しかしそれにしても、芳一はまだ十三歳（さい）だった。大人ではない。親がそばにいてやらなければならぬ年頃（ころ）だ。デイトツは自分の亡（な）くした子供を芳一の申し訳（わけ）なさそうな顔に重ねて、思わず涙（なみだ）が出（で）そうになった。彼は椅子（いす）から立ち上がって天井（てんじやう）を見上げ、一週間か、と呟（つぶや）いて、自分に言い聞かせた。これはもう決まったことなのだ。俘虜（ふりよ）の自分にはどうすることもできない。そして声を励（はげ）まして、

「ヨシ、親は子供より早く死ぬ。それにいずれみんな社会に出て行く。君の場合は、それが少し早かっただけだ」

「はい」

「君のいうように、大阪には新しい世界が待ってるだろう。俺（おれ）には何もできないけど、これだけはいわせてくれ。自分を独（ひとり）だと思（おも）うな。君を生んだお母さんは、君の中に生きてる。それから俺達（おれたち）も、ずっと一緒（いっしょ）だ」

「ありがとうございます」少年はまたはにかんだ表情になった。

「どんな小さな仕事でも、与えられた仕事を誠実にやり遂（と）げるんだ。それが君の成長につながる」

「はい、そうします」

「毎日、毎日、おなじことをやる。人間の生活は繰り返しだ。ある意味、単調（たんてう）なものだ。それに耐（た）え抜（ぬ）いたものだけが成功する」

「はい」

「¹自棄¹になっちゃいけないよ。早く世の中に出ることを幸運だと思うんだ。ほかの者より早く仕事を憶^{おぼ}えられるわけだからね。君は若いんだ。それだけでどんな金持ちよりも、すごいんだ。

それからヨーロッパにこんな諺^{ことわざ}がある。旅^{たび}の途^と上で起きることは、どんなことであれ、すべてが最良の出来事である——人の一生も旅みたいなものだ。何があっても、一番良いことが起きたと思うんだ。不平をいう奴^{やつ}の人生は、不平通りになっていく。

絶対、成功してみせると決めるんだ。生き物の中で、人間だけが自分の生涯^{せいかい}を思い描^{えが}くことができる。人間に備わっている想像力は、人生をつくるためにあるんだ。

君は……君は、その工場の社長になれ。課長でも部長でもない。社長だよ」
「え？」

芳一は戸惑^{まど}ったような表情になったが、
「大丈夫だ。君は頭がいい。性格もいい。絶対、社長になれる」

デイツは話しているうちに気分が昂揚^{きうよう}してきて、万が一にもこの少年が成功しないとは限らない、と思った。少数ではあるけれども、芳一のような立場から勝ち抜いた者もいる。それは新しい土地での新しい経験に臨^{むか}んでの、浮き立つ少年の感情が伝染したのと、何よりもデイツ自身の哀^{かな}しい願いの現われだった。

⑥「いいか、社長になるんだ。そのために、みんなに可愛^{かわい}がられなさい。感じよくするんだよ。頼^{たの}まれた仕事は、どんな嫌^{いや}なことでも、笑顔で引き受けるんだ」

「はい。社長は分らないけど、できるだけがんばります」

その夜店を閉めたあと、彼は個人教授の講師をしている俘虜^{ちゆうりょ}の仲間を呼んで相談を持ちかけた。男達が沈黙^{ちんもく}している中、デイツは一つ咳^{せき}払いして、

「ヨシの出発を祝ってやりたいと思うんだ」といった。「おまえの人生に関心を持って、新しい出発を祝ってる人間がいるぞって、伝えてやりたんだ」

「パーティーでもするか？ ……ありきたりだな」

「いや、それもやってやりたい。でも、俺に考えがあるんだ」

デイツの打ち明けた計画に三人は同意した。

「じゃ、明日から協力者を募^もろう」

翌日になって四人は兵舎を回った。俘虜^{ちゆうりょ}は寄付と聞くと誰もが嫌な顔をした。限られた収入しかない身の上で、単調な食生活に変化をつけたり、

ボウリング場へ出かけて仲間とグラスを傾^{かたむ}けたり、いつまで続くのか分からない俘虜生活で心身の健康を保つための経費だけでも楽ではない。さらに強制ではないけれども、保険組合に保険料を納めなければならぬので、できるだけ余分な出費は避^さけたかった。そんな彼等の多くが、芳一の新しい出発を祝うためだと知ると、進んで寄付に応じたので、翌日の夜までには収容所の人口のほぼ半分に協力を取りつけることができた。それからデイツは集まった寄付金を持って商店街に店を構える職人を訪ねた。彼等は実費だけで計画に加わることを約束した。

(村上政彦『ハンスの林檎^{りんご}』)

問一 〜〜線「油を差したり」とありますが、次のA〜Dの「油」を用いたことばの意味を、それぞれの後のア〜エの中から選び、記号で答えなさい。

A 油が切れる B 油を売る C 火に油を注ぐ D 水と油

ア 感情や行動をさらに悪化させること。

イ うまく処理できる能力があること。

ウ 世間に広く名前を知ってもらうこと。

エ 互^{たが}いに反発し合って仲が悪いこと。

オ 活動の原動力となるものがなくなること。

カ むだ話などをして仕事を怠^{なま}けること。

問二 〇に入ることばとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 多元 イ 悲観 ウ 発展 エ 一般

問三 〓線1「自棄」・2「昂揚」とありますが、ここで用いられている意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1 自棄 ア 変化のない生活に慣れる イ 相手の機嫌^{げん}をとる ウ 無責任な行動をとる エ 自分の意見を言わない

2 昂揚 ア 高ぶる イ 和む ウ 楽になる エ 乱れる

問四 ―― 線①「少年は照れたような笑みを浮かべて応えた」とありますが、このときの芳一の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 故郷を離れることに不安はあるが、板東では経験できないような新しい世界を自分の目で確かめたいと期待する気持ち。
イ 勉強を教えてくれた俘虜と別れることになり、これからは独りの力で生きていかなければならないという不安な気持ち。
ウ 必死になって働き口を見つけてきてくれた義母に対して、一途な愛情を感じることができて照れくさく思う気持ち。
エ 俘虜とは違い日本人である自分には自由があり、新しい場所で誰にも縛られずに生活できることを自慢する気持ち。

問五 ―― 線②「当惑しているディーツと違って、芳一は淡々としていた」とありますが、ディーツと芳一の様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いらだっているディーツに対して、芳一はぼんやりとした様子で接している。
イ 混乱している様子のディーツに対して、芳一はしっかりと意志を持って接している。
ウ 怒りがこみ上げているディーツに対して、芳一は穏やかな態度で接している。
エ 途方にくれているディーツに対して、芳一はあつさりした態度で接している。

問六 ―― 線③「もう少しよく考えたほうがいいと思うんだけどね」とありますが、ディーツはなぜこう言ったのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 過酷な未来になることをうまく伝えることができず、投げやりになったから。
イ 言うことを聞かない芳一の態度が鼻について、嫌気がさしたから。
ウ 世間の厳しさを知らない少年の行く先を案じて、痛ましくなったから。
エ 自分に相談せず大阪行きを決めた芳一の考えを聞き、不愉快になったから。

問七 ―― 線④「お母さんがもう決めてしまったから……」とありますが、母親はなぜ芳一が大阪へ行くことを決めたのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日本の敵国であるドイツの俘虜と関わる芳一をあまり快く思わず、遠い地に行かせることで俘虜との関わりを絶とうと考えたから。
イ 夫が働けなくなった今苦しい家計を支えられるのは芳一しかおらず、大阪の工場で働いてもらって家計の足しにしようと考えたから。
ウ 親は年老いて働けなくなったり子供より早く死んでしまったりするので、いつまでも親に頼らず早く自立してほしいと考えたから。
エ ドイツ語や物理など他の子供は学べないようなことを個人的に教授してもらったので、それを社会で活かしてほしいと考えたから。

問八 ―― 線⑤「旅の途上で起きることは、どんなことであれ、すべてが最良の出来事である」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分にできないことは排除してできそうな仕事だけを選べば、その道に秀でた人間になれるという意味。
イ よいことだけでなく嫌なことでも引き受けて真面目に取り組めば、自分自身の糧となっていくという意味。
ウ 自分のやりたいことを周りの助けを借りながらこなしていけば、思い通りの未来になっていくという意味。
エ 人が敬遠しがちなめんどろな仕事を積極的にしていけば、誰もがうらやむような出世を遂げるという意味。

問九 ―― 線⑥「いいか、社長になるんだ」とありますが、ディーツはどのような気持ちからこのことばをかけたのですか。次の条件にしたがつて答えなさい。

- 1 本文中のことばを用いて、「〴〵という気持ち。」に続くように三十五字以上、五十字以内で答えなさい。
2 芳一が大阪に行くことについて、ディーツ自身の心境の変化がわかるように書きなさい。

問十 本文中で、「芳一」はどのような人物として描かれていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア しっかりとした信念を持っており、新しいことにも挑戦しようとする向上心が高い人物。
イ 様々な経験をしてきたディーツの意見を尊重し、何でも言うことを聞こうとする素直な人物。
ウ 周囲にいる身勝手な大人たちにふりまわされて、故郷からも追い出される意志の弱い人物。
エ 俘虜たちに心を許し、日本よりも敗戦国であるドイツの教育を学ぼうとする風変わりな人物。

問十一 本文中で、「ディーツ」はどのような人物として描かれていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 将来に対して希望を持てずに、すべての出来事を否定的にとらえてしまう人物。
イ 亡くなった子供の代わりに、芳一を自分で育てようとする思いやりのある人物。
ウ どんな相手にも高圧的な態度で接して、自分の意見を押し付けようとする人物。
エ 置かれている状況のなかで、最善のことをしようと前向きにとらえる人物。

問十二 本文において、次のように説明される部分はどこですか。ドイツの語る会話文の中から二文で探し、はじめの五字を答えなさい。

この部分には人間のすばらしさが示されており、人生は与えられるものではなく、自分の意志や希望によって形作ることができるという人間だけが持ちうる力について語られている。それはそのまま「人生」についての教訓ともなっている。

問十三 本文について述べたものとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 「ドイツ」の視点で描くことで、豊かに生活するための助言が随所にちりばめられている。
イ 純朴な少年の未来に対する前向きな思いが、大人の心を動かしていく様子が表現されている。
ウ 緊迫した国の状況を、純粹な心を持った少年の言動によって和らげるように描いている。
エ 平易な文体で描くことで、戦争の悲惨さや俘虜の様子をわかりやすく読者に伝えている。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

最近、特に生物資源を大切にしよう、ということが国際的に強く主張されるようになりました。日本でも、トキの、種としての再生に、大きな努力と資源が費やされてきました。それはそれで、重要なことだと思いますが、現在の状況を見れば、「自然」としてのトキという種は、すでに絶滅していると判断して差し支えないと思います。そして長い自然の歴史のなかには、絶滅した種は、山ほどありますし、それ自体自然なことなのです。トキを何とか保存しようとしているのは人間で、これも実は自然に対する人間の介入なのです。

（A）自然保護という概念そのものが、ホワイトが告発した論点、つまり人間が自然を管理する、ということのなかに包含されていることではありませんか。人間が人為的に「保護」しなければならぬ自然とは何なのでしょう。それはもはや本来の意味での自然ではない。人間の管理の手が入った自然をⅠとする文明が、人間の手で自然を野生から救うことであつたとすれば、その延長上に、人間の手で野生をも救わなければならぬ、という逆説がここに現われます。

レイチェル・カーソンの『沈黙の春』は、様々な社会的な反対にもめげず、あえて化学物質の自然への脅威を説いた、環境問題のⅡ書の如き受け止め方がなされています。その価値を尊重することにおいて、私も人後に落ちるものではありませんが、彼女が、生物学的手法（特に「害虫」の雄の不妊化を利用した駆除方法）を絶賛していることは、あまり指摘されません。生物多様性を主張し、自然には害虫もⅢ虫

も存在しない、と言いつつも、しかし、痘瘡の病原体が地球上から消えた（ように思われる）ことの価値を否定する人はいません。日本住血吸虫症は、北九州の一部、広島県、山梨県などの風土病として、恐れられていましたが、その幼生の中間宿主であるミヤイリガイをほぼ絶滅させることによって、今では日本国内では克服された病気になっています。しかし、ミヤイリガイを絶滅危惧種として保存しよう、という運動はありません（ある地域では、ミヤイリガイの供養塔が建てられたそうですが）。

ここで、そうした矛盾を矛盾として非難したり否定したいのではありません。ことほど左様に、環境問題というのは難しいのだ、ということを言いたかっただけです。少なくとも私たちは、こうした難しさを念頭に置き、一つ一つの問題に、様々な観点から検討を加えつつ、そのときに〈better〉と思われる解を選んで進むよりほかに途はないのでは、と思います。〈better〉と言ったのは、このような領域には〈best〉はないからです。〈best〉と思い込むことによって、次の段階で〈better〉が見えても、（B）そちらにシフトができないのが人間の常だからです。今の段階で、精々〈better〉と思われるのだから、という程度の判断で、解を探し実行する、これが望ましい態度ではないかと思うのです。

（村上陽一郎『あらためて学問のすすめ』）

※ホワイト……アメリカの研究者リン・ホワイト・ジュニア

※レイチェル・カーソン……アメリカの海洋生物学者。『沈黙の春』の著者。農薬使用の危険性を警告した。

※中間宿主……幼虫の時に寄生する動物。

※シフト……移動すること。

問一 ~~~~~線「少なくとも」がかかっている部分として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 私たちは イ こうした難しさを ウ 念頭に置き エ 検討を加えつつ オ と思います

問二 （A）・（B）に入ることはとして最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号はくり返し使えません。

- ア つくづく イ しばしば ウ なかなか エ ますます オ そもそも

問三 ⅠⅢに入る漢字として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号はくり返し使えません。

- ア 俗 イ 益 ウ 良 エ 善 オ 悪 カ 聖

問四 〓線「人後に落ちる」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他者を批判する イ 人々に賛同する ウ 他人に負ける エ 努力をおこたる

問五 〓線①「それ自体」とはどのようなことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本固有種のトキはすでに絶滅していることと判断を下すということ。

イ 生物資源保護を強力に推奨する世界の動きに同調するということ。

ウ トキを絶滅の危機から救うためにたゆまぬ努力をするということ。

エ 環境に適応できない生物が絶滅の道をたどってしまうということ。

問六 〓線②「逆説」とありますが、どのような点を「逆説」というのですか。次の文の「あ」「い」に入ることばを、本文中からそれぞれ解答欄の字数でぬき出して答えなさい。

自然とは本来、「あ」の状態をさすにもかかわらず、それを「い」に守らねばならないものと考える点。

問七 〓線③「そうした矛盾」とありますが、どのような矛盾ですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生物の多様性を重要視しているのに、病気の撲滅のためにある種の生物を絶滅させることには異論を唱えないという矛盾。

イ 痘瘡の撲滅に関しては肯定的な意見が多数であるのに対して、日本住血吸虫症克服には反対運動が展開されるという矛盾。

ウ レイチエル・カーソンが提案する生物学的手法を絶賛しているが、完全には病原体を絶滅させられていないという矛盾。

エ ミヤイリガイの幼生を絶滅危惧種に追いやってしまったことで、日本の農耕文化の発展が阻害されてしまったという矛盾。

問八 筆者の主張を説明した次の文の「あ」「い」に入ることばを、それぞれ解答欄の字数でぬき出して答えなさい。

人間は往々にして一度最善だと思い込んだことに束縛される傾向を持つが、「あ」は一筋縄ではいかない難しさを抱えているため、より良いと考えられるレベルの「い」を見つけて、それを行っていくという姿勢が求められる。

【三】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の 〓線の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

① ハロウィンで仮装する。

② 警世の書を著す。

③ 故郷を離れて久しい。

④ 寸劇の台本を書く。

⑤ 先人から生き方の指針をうる。

問二 次の 〓線のカタカナをそれぞれ漢字に改め、正確に書きなさい。

① 総選挙の投票日がコウジされた。

② 彼の趣味はシュゲイだ。

③ さまざまな意見をシユウヤクする。

④ つつましい暮らしをイトナむ。

⑤ 移籍の権利をコウシする。

問三 次の 〓線のカタカナを漢字に改めたとき、その漢字の部首をそれぞれ後のア～コの中から選び、記号で答えなさい。

① チームに残るようセツトクする。 ② コノみの色を選ぶ。 ③ 日本レットウを桜前線が北上する。

ア コ イ がつへん ウ そうによろ エ ぎようにんべん オ すん

カ ヒ キ のぎへん ク おんなへん ケ いち コ りつとう

問四 次の——線の対義語として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 株主として優遇される。

ア 優先 イ 厚遇 ウ 冷淡 エ 冷遇

② 輸出入の規制を緩和する。

ア 緩急 イ 強化 ウ 飽和 エ 易化

問五 次の——線の類義語として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

① 発掘の記録が克明にしている。

ア 丹念 イ 念頭 ウ 克服 エ 明快

② 今年の夏は尋常でない暑さだ。

ア 常設 イ 共通 ウ 普通 エ 普及

国

語（解答用紙）

A 日程

句読点はすべて字数にふくみます。

【一】

問一

A

B

C

D

問二

問三

1

2

問四

問五

問六

問七

問八

問九

35

50

という気持ち。

問十

問十一

問十二

問十三

【二】

問一

問二

A

B

問三

I

II

III

問四

問五

問六

あ

い

問七

問八

あ

い

【三】

問一

①

②

③

しい

問二

①

②

③

問三

①

②

③

④

⑤

問四

①

②

③

問五

①

②

①

②

合 計

8

7

6

5

4

3

2

1

受 験 号